



令和 8 年 5 月 27 日

保護者の皆様へ

千早赤阪村立千早小吹台小学校
校長 越口直史

麻しん(はしか)の感染拡大防止について(お願い)

平素は、本校教育活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

さて、現在国内で令和2年以降最多のペースで麻しん(はしか)患者の発生が確認されています。本校においては、現時点で患者確認されておりませんが、万が一罹患した場合には、保健所による疫学検査等に協力する必要がありますので、保護者の皆様におかれましては、下記についてご理解ご協力いただきますようお願いいたします。

なお、お子さまが麻しん(はしか)に罹患された場合は、必ず早急に学校までご連絡ください。

記

1、麻しん(はしか)について

特徴	感染力がととも強く、発症率も高い
感染経路	空気感染、飛沫感染(咳・くしゃみ)、接触感染
潜伏期間	約10~12日間(最大21日間)
症状	<p><カタル期> 発熱(38℃前後)が3~4日間続き、咳・くしゃみ・鼻水など風邪様症状、結膜炎症状が現れる。 乳幼児では、下痢・腹痛を伴うことが多い。 熱が一時下がる頃、頬粘膜に白色小斑点(コプリック班)が出現。</p> <p><発疹期> 一時熱が下がり、再度高熱(39.5℃以上)、赤色小発疹が顔から全身に広がる。</p> <p><回復期> 発疹出現後、3~4日続いた発熱が解熱、発疹は色素沈着し消退、回復に向かう。</p>
感染可能期間	発症日(*1)の1日前から解熱後3日間(*2)を経過するまで (*1)発症日:37.5℃以上の熱、咳・くしゃみ・鼻水など風邪様症状、結膜炎症状 (*2)解熱後3日間:解熱した日を0日目、翌日を1日目として3日間を経過するまでを指す。全経過を通じて発熱が見られなかった場合、感染可能期間は発疹出現後5日目までとする。
合併症	肺炎、脳炎、中耳炎、クループ症候群、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)等
治療/予防	対処療法が中心。ワクチンによる予防が最も有効。

2、体調不良時の対応について

麻しん(はしか)を疑う症状がある場合には、事前に医療機関にその旨を連絡し、速やかに受診してください。麻しん(はしか)と診断された場合は、出席停止となります。登校再開については、解熱後3日を経過するまでとなっています。登校の際は、医療機関から発行される「治癒証明書(意見書)」を学校までご提出ください。必ず医師の指示を受け、出席停止期間を守っていただくようお願いいたします。

以上